

# 新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ③

## 6月検針分（主に4・5月使用分）

### 用途別の影響

令和2年6月の検針データを前年と比較すると、下表にまとめたとおりとなります。

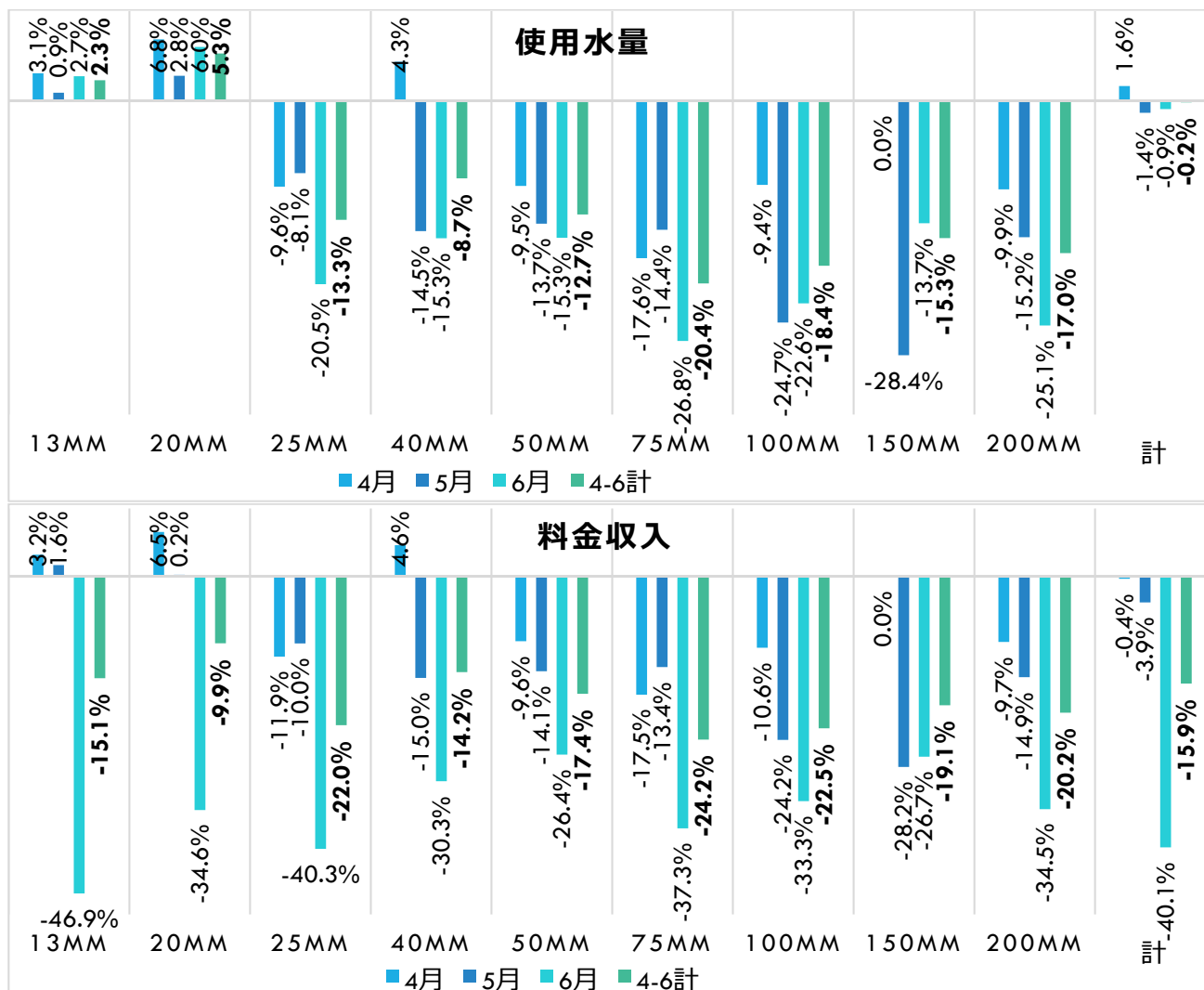
4月、5月に引き続き、主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは水量が増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターでは減少し、合計では約16,000m<sup>3</sup>の減少となっています。

料金は、6月検針分から基本料金の全額と従量料金の10%の減額が始まったことにより、大きく減少し、減額措置決定時に見込んだ6,600万円/月を大きく上回る8,200万円の減額となりました。実際に水道が使用された4、5月は、緊急事態宣言の真っ只中であり、事業活動が大きく低下していたことが伺えます。

検針年	区分	20mm以下	25mm以上	合計
R1 (2019)	水量 (m <sup>3</sup> )	1,363,963	316,911	1,680,874
	金額 (税抜き:円)	131,978,085	71,969,170	203,947,255
	供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	96.76	227.10	121.33
R2 (2020)	水量 (m <sup>3</sup> )	1,410,506	254,835	1,665,341
	金額 (税抜き:円)	73,483,305	48,726,365	122,209,670
	供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	52.10	191.21	73.38
増減	水量 (m <sup>3</sup> )	46,543	△ 62,076	△ 15,533
	増減率	3.41%	△19.59%	△0.92%
	金額 (税抜き:円)	△58,494,780	△23,242,805	△81,737,585
	増減率	△44.32%	△32.30%	△40.08%
	供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	△ 44.66	△ 35.89	△ 47.95
	増減率	△46.16%	△15.80%	△39.52%

### 口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 25mm 以上のすべての口径で使用水量が減少しています。また、減額措置の影響により、料金収入はすべての口径で減少しています。合計では、使用水量は 0.9%、料金収入は 40.1%減少しました。



### 結論

使用水量合計値の変動率は、令和元年度における月ごとの対前年度の変動の範囲（△4.2%～2.5%）内である△0.9%となりました。また、業務用に多く用いられる 25mm以上の落ち込みは、4月、5月の検針データよりもさらに拡大し、19.6%もの減少となりました。

業務用に多く供給されている金井場配水場からの配水量の日平均値を見ると、6月も9%程度減少したままであり、業務用の落ち込みには、今後も注意を払う必要があります。